

固定観念を打ち破る、
社会、世界の幅広い
見方を探究する。

交流文化学部
交流文化学科
教授

若松孝司

【学歴】

1992年3月 名古屋大学法学部政治学科卒業
1996年3月 名古屋大学大学院国際開発研究科国際協力専攻博士前期課程修了
1996年3月 学術修士(国際開発)学位取得

【職歴】

1996年4月 学校法人河合塾小論文科兼任講師
1998年4月 愛知淑徳短期大学教養科目担当兼任講師
1999年4月 愛知淑徳短期大学英米語学科兼任講師
2000年4月 愛知淑徳大学文化創造学部講師
2004年4月 愛知淑徳大学文化創造学部准教授
2010年4月 愛知淑徳大学交流文化学部准教授
2011年4月 愛知淑徳大学交流文化学部教授

【主な学外活動】

2008年4月 愛知県男女共同参画審議会委員
2010年4月 財団法人あいち男女共同参画財団評議員
2014年4月 愛知県男女共同参画審議会副会長



「自分の半径3メートルの狭い世界にとどまらず、社会の課題や多様な価値観を知る。世の中の物事を、柔軟に、多角的に捉える。そんな広い見方を身につけてほしいと授業やゼミで伝えています」。そう語る若松先生は、国際政治学やジェンダー論の研究に尽力。学生たちが広い世界に目を向けるきっかけをつくり、一人ひとりの成長を後押ししています。

「オンナって自由に進路を選べていいよなあ。オトコは将来家族を養わなきゃいけないから、ちゃんとした収入を得るために正社員になるしかないんだよなあ。」就職活動を控えた男子学生の言葉です。古臭い考えと思われるかもしれませんが、若い世代にもこうした認識は根強く残っています。

男女の体の仕組みの違いを表す「セックス」とは異なり、この発言に見られるような、男女がそれぞれの役割をどのように果たすべきか、という社会的、文化的な観点から見た男女の違いを「ジェンダー」といいます。ジェンダーは生まれながらに身につけているものではなく、家庭生活や学校などの集団生活を通して徐々につくられていくものとされています。そのきっかけや原因と

なる事柄は数多く考えられますが、私が担当している授業では、子どもがみるテレビ番組、なかでもチーム内での男女の役割分担が明確に描かれている特撮戦隊ヒーロー番組を取り上げ、ジェンダー意識がどのように形成されるのかを明らかにしています。通常5人で構成される戦隊チーム内に女性メンバーは2人。それぞれがしとやかさ担当と活発さ担当という、いまの女性に求められる2つの役割を分担しているのです。もともと国際政治学を専門としてきた私がジェンダー論に関心を持ち始めたのは、本学に赴任してジェンダー・女性学研究所の運営委員を引き受けたことがきっかけでした。いまでは学外で依頼される仕事のほとんどがジェンダー関連のものになっています。

若松先生の主要著書・論文

- 「ジェンダーの交差点―横断研究の試み2009、彩流社(分担執筆、pp111-118)」
- 「ジェンダーと教育―横断研究の試み2012、ユテ(分担執筆、pp155-190)」
- 「公益財団法人への移行にみる公益性の維持:あいち男女共同参画財団を事例に」
- 2013、愛知淑徳大学論集―グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科篇―(第5号)
- 「女性の雇用環境に関する現況調査報告―追跡―人口減少―キャンベス―アンケートの結果から―」2015、愛知淑徳大学論集―グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科篇―(第7号)
- 「男女共同参画をめぐる現状と課題」2016、愛知淑徳大学論集―交流文化学部篇―(第6号)

